

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報

1月

野菜の作業 今年も元気に楽しく 新たな品目や作型に挑戦しよう！

種まき	栽培管理のポイント
<p>ハウス育苗型春レタス ・標高 500mで4月下旬～5月上旬頃に収穫する作型では今月が播種期です。</p> <p>冬まきパセリー ・播種後十分に灌水をし、温度を 20 前後で管理。(25 以上にしない) ・発芽後は日中 20、夜間 10 を目安に管理。 ・本葉 3～4 枚で間引きをします。</p>	<p>果菜類の育苗管理のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床土の条件 果菜類は 30 日前後から品目によっては 70 日以上もの間、根域が限られた鉢で育てなければならないことから良い土壌条件の床土を使う必要があります。無病で通気性と保水性が保たれていることが重要で、良質な有機物を混ぜる必要に応じパーミキュライトやパーライトなどを加えた床土を用意します。 ・温床 低温期にはまず地下部の温度を確保することが重要で、電熱線を用いて育苗温度を保持する必要がありますが、育苗床は水むらをなくするため高低差がないようにできるだけ平坦にし、日当たりが良く風の影響の少ない場所に設置します。発芽時と幼苗期は 28～30 に設定するが生育が進むにつれ温度を下げます。 ・光環境 早春期は二重カーテンやトンネルなどを用い温度確保を図りますが、定期的に日射量が少なく被覆資材で覆われているため、光線不足を招き徒長気味の生育になりやすく、特にトマトなどは光要求度が高いことから受光不足とならないよう生育適温の範囲でなるべく被覆のかけはずしを小まめに行うようにします。 ・温度・水管理 品目毎の生育適温域内で保温・加温を行い、日中は 25 を目安に換気を行います。夜温が高すぎると軟弱徒長になりやすく初花房位置が上昇したり、着花数が減少してしまうので育苗期間中は徐々に下げて行きます。 かん水は、なるべく晴天日の午前中に鉢の下からしみ出る程度に行いやりすぎないように注意し、夕刻には表面が乾いている程度に管理するのがポイントです。

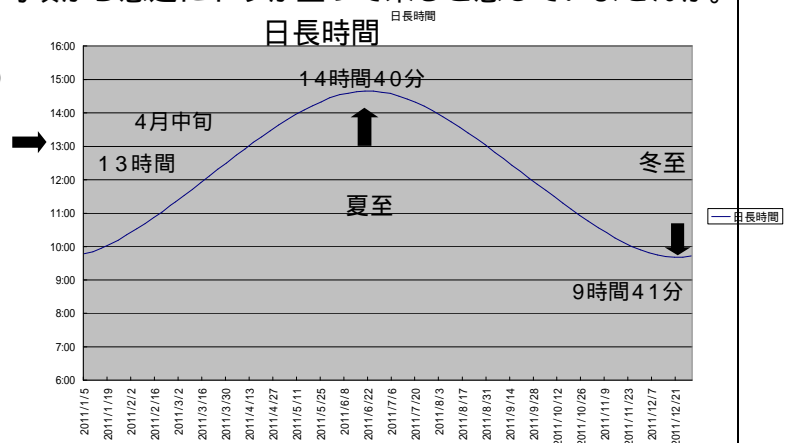
抽台と日長の関係

今回は、ハウレンソウを例に日長と抽台の関係をより詳しく紹介したいと思います。作期や品種などの選定の参考にさせていただき、安定生産に結び付けていただきたいと思います。

まず、経験的に越冬したハウレンソウは4月の中旬頃から急速にトウが立って来ると感じていませんか。それは、その頃から日長時間が13時間を越えるようになってくることによるものです。(右図)ハウレンソウの東洋系品種では12～13時間、東洋系品種では14～16時間を超えると花芽分花・抽台が促進されます。

日長は6月下旬がピーク(夏至の6/22前後)で上田の場合約14時間40分あるため、4～7月上旬までは種は最も抽台しやすい作期ということになります。そこで抽台しにくい晩抽性の品種の選定が重要となります。

晩抽性の品種としては、前述したように西洋系品種のほか、味や葉の形状の良い東洋種に育種により晩抽性を付与させた中間種の中から選定することが重要です





エコファーマーの皆さんへ

エコファーマーマーク使用に関するお知らせ

- 1 県では「長野県のエコファーマーマーク」を制定し、平成24年度から、使用容器類、ポスター、チラシなどへ表示することができます。
- 2 マークを使用する場合は、マークの使用申請や実績報告などを行っていただく必要があります。

JA全中のエコファーマーマークの使用停止に至る経過と県の対応について

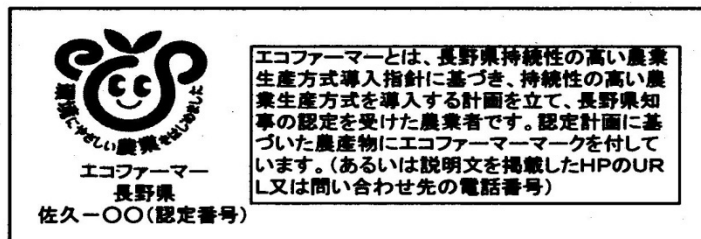
エコファーマーマークは、平成15年度に制定され容器包装類に表示するなどの使用が認められてきました。

しかしながら商標権者の意向により、平成23年度から（現在使用している場合は平成24年度から）マークの使用が停止されています。

そのため県では、このマークの商標権を譲り受け今後、「長野県のエコファーマーマーク（仮称）」を制定し管理を行うことになりました。

ただし作成済みの資材（在庫）に限り、平成26年3月末まで使用することが認められていますので、当面の間2つのマークが存在することになります。

<新マークのイメージ図>



おいしい野菜とは（その1）

現在果物においては糖度という値が一般的に使われますが、必ずしも糖度が高いから甘くておいしいとは言えません。同一品種であってもやや酸味があった方がおいしいと言う方もいます。前々回のどきどき情報ではお米の食味計の説明をしました。お米の場合は、アミロースやタンパク質などを数値化して表しますが、野菜はどうでしょう。これまで野菜の品質については、鮮度や外観（形・色・艶）、食感など意識されそれに合わせた栽培方法が研究されてきました。同じ肥料を使っても微妙に土壌形態や気象条件によって違ってきます。まして栽培者が手をかけた分だけでも違います。

農林水産省では、平成18年度から21年度にかけてアンケート調査を実施し結果を公表しています。また「野菜のおいしさ検討委員会」ではホウレンソウ・キュウリ・ニンジンについて検討されました。

まとめについては、他の試験研究資料と共にご報告させていただきます。

今回のこのテーマを組合長からいただいた後、インターネットや試験研究機関等に問い合わせを行ったりしましたが、年末年始の休暇も重なり、あっという間に締め切りとなりました。次回も引き続きのテーマとしたいと思いますのでよろしく願いいたします。